

# 社員の環境意識

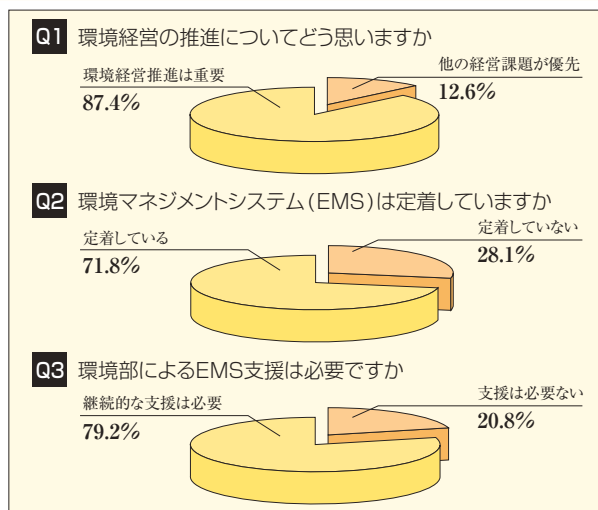
九州電力では、全社員を対象とした環境意識等調査や事業所の環境担当者と環境部管理職との意見交換会を行い、社員の環境活動に対する意識や理解、実践状況、さらにはニーズなどについて把握・分析し、より効果的な社員教育プログラムの検討や環境アクションプランの策定に反映させています。

## 社員の環境意識等調査

### 調査の概要

調査内容	環境経営、環境情報に関する認知度 環境活動に対する理解度 環境活動の個人レベルでの実践度
対象	社員 12,192名 (在職者、ただし本店の室部長以上および支店長、休職者等は除く)
回答者数	7,013名(回答率:58%)
調査方法	社内パソコンネットワークを活用した電子メールによるアンケート(回答は無記名)

### 主な調査結果



**〔分析〕** ○環境経営推進に対する理解は浸透し、具体的な取り組みであるEMSについても定着してきた。  
○取り組みの維持、促進のため、環境部による継続的な支援活動を要望する声は増している。

**〔対応〕** ○環境アクションプラン理解促進活動の継続  
○事業所のEMS運用実態に対応した支援  
○EMS内部環境監査組織への支援強化

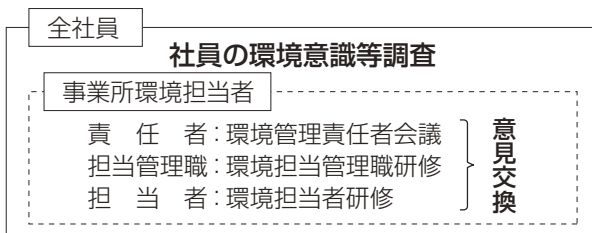
### 今後の取り組み

環境経営を推進していくためには、実際に取り組みを行う社員一人ひとりの高い意識の醸成と維持、向上が重要だと考えています。

環境への取り組み方針や目標、具体的な計画を社員一人ひとりに確実に伝えるとともに、社員の意見を幅広く聴取することができる「環境意識等調査」、「意見交換」等を今後とも継続して実施することにより、更なる環境活動の改善・充実に役立てていきます。



環境管理責任者会議(長崎地区)



## 環境管理責任者会議での意見交換

事業所の環境活動推進責任者である環境管理責任者を支店区域毎に集め、情報の共有化と意見交換を行う会議を年に2回(上期、下期各1回)開催しています。

### 主な意見と対応(環境管理責任者:環責、環境部:環境)

**環責:** 環境アクションレポートの位置づけはどうか、CSR報告書との統合はしないか。

**環境:** 環境アクションレポートはCSR報告書の中に掲載している環境情報を詳細に取り上げたもの。CSR報告書との統合については、社会的な動向を踏まえ検討する。

**環責:** EMSがしっかり機能していれば、内部環境監査によるチェックは不要ではないか。

**環境:** 内部環境監査はシステムが上手く機能しているか確認するために必要であり、システムの改善につなげていくという重要な役割がある。

**環責:** 共同回収品目の拡大、グループ会社を含めた取り組みを進めてもらいたい。

**環境:** 回収品目の拡大については、現在の共同回収品目に次いで排出量が多い汚泥と廃油について検討を実施中。グループ会社への拡大については、各社の事情等を調査の上、準備ができたところから順次実施する。

## 環境担当管理職、担当者研修での意見交換

事業所で環境経営を実際に推進している管理職、担当者を集めた研修会において、環境部長ならびに環境部の各グループ長と直接意見交換を行う場を設定し、意思の疎通を図っています。

### 主な意見と対応(環境担当:環担、環境部:環境)

**環担:** 環境会計システムへの入力分かりにくい。

**環境:** 様式の改善、記入要領書の見直しなどについて検討する。

**環担:** 全社大の用紙購入量、上水使用量の目標は見直さないか。

**環境:** 新規の目標設定にあたり現状維持としたものであるが、事業所の取り組み状況等を踏まえ、見直していく。